



バングラデシュの女の子たち



ホンジュラスの女の子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
2025年度 年次報告書

2026年3月発行  
発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン  
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F  
TEL:03-5334-5350 (代表) FAX:03-5334-5359  
HP:www.worldvision.jp  
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。  
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン 2025年度  
**年次報告書**  
World Vision Japan Annual Report 2025  
2024年10月 - 2025年9月

# きみたちは、希望だ



## 2025年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン	03	企業・団体との連携	19
2025年度 活動マップ	05	皆さまとともに	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ	07	緊急人道支援—災害への対応—	23
チャイルド・スポンサーシップによる事業	09	2025年度 会計報告	24
募金や他団体との連携による事業	13	2025年度 支援事業一覧	27
国内での事業	17	ワールド・ビジョンについて	29
アドボカシー	18		

## 基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します  
私たちは貧しい人々のために献身します  
私たちはすべての人を価値あるものとします  
私たちは仕えるものです  
私たちはパートナーです  
私たちはすぐに対応します

## ごあいさつ

日ごろより、世界の子どもたちをご支援くださり誠にありがとうございます。心からの感謝とともに、2025年度ワールド・ビジョン・ジャパン年次報告書をお届けいたします。

2025年11月、WVパートナーシップ全事務所の理事長・事務局長がメキシコで一堂に会しました。今日も、紛争、飢餓、災害、貧困が多く地域で深刻な状況を引き起こしています。公的援助資金削減は、国際協力・人道支援の取り組みに大きな影響を及ぼしています。その影が最も濃く影響して苦しみに置かれている子どもたちの声、そして、スタッフの奮闘に触れる時となりました。最も弱い立場にある子どもたちに寄り添い続けること、「すべての子どもに豊かなのちを」というビジョンへの決意を、いっそう深めております。

ワールド・ビジョンは、チャイルド・スポンサーシップを通して世界49カ国約1,460万人の子どもたちに変革をもたらす、災害や紛争など危機的状況にある65カ国3,500万人以上に命を守り希望をつなぐ支援を届けることができました。これもひとえに、皆さまのご支援のおかげと、あらためて感謝申し上げます。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますようお願いいたします。

「自分にこんな可能性があるとは知らなかった」。2025年夏に訪問したフィリピンのチャイルド・スポンサーシップによる支援地域で、高等教育に進学したひとりのチャイルドから聞いた言葉です。

2025年10月、事務局長の職責を引き継ぎました。国内外に課題が山積し複雑化している中で就任に、身が引き締まる思いです。しかし就任直前、冒頭ご紹介したチャイルドの言葉や、地域の住民の方々の喜びに触れ、皆さまのご支援の力を深く実感し、勇気をいただきました。

2025年度、ワールド・ビジョン・ジャパンは63億円を超える資金をおあずかりし、36カ国で149事業を実施。皆さまのご支援を通して、世界の子どもたちが自らの可能性を發揮し、豊かなのちを生きるチャンスを広げることができました。心から感謝申し上げます。これからも、子どもたちの無限の可能性を信じて、皆さまとともにワールド・ビジョン・ジャパンの活動を進めてまいります。これまで培われた歩みを大切にしつつ、同時に、世界の子どもたちの希望を切り拓くために、変化を恐れず挑戦を続けたいと願っております。変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
理事長

片山 信彦



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
理事/事務局長

中島 みぎわ



## ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、  
すべての子どもに豊かなのちを  
私たちの祈りは、  
すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を  
Our Vision for every child, life in all its fullness  
Our Prayer for every heart, the will to make it so

## ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく  
国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、  
貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、  
正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。  
私たちは、このミッション実現のために、  
総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

# 数字で見る

## ワールド・ビジョン・ジャパン

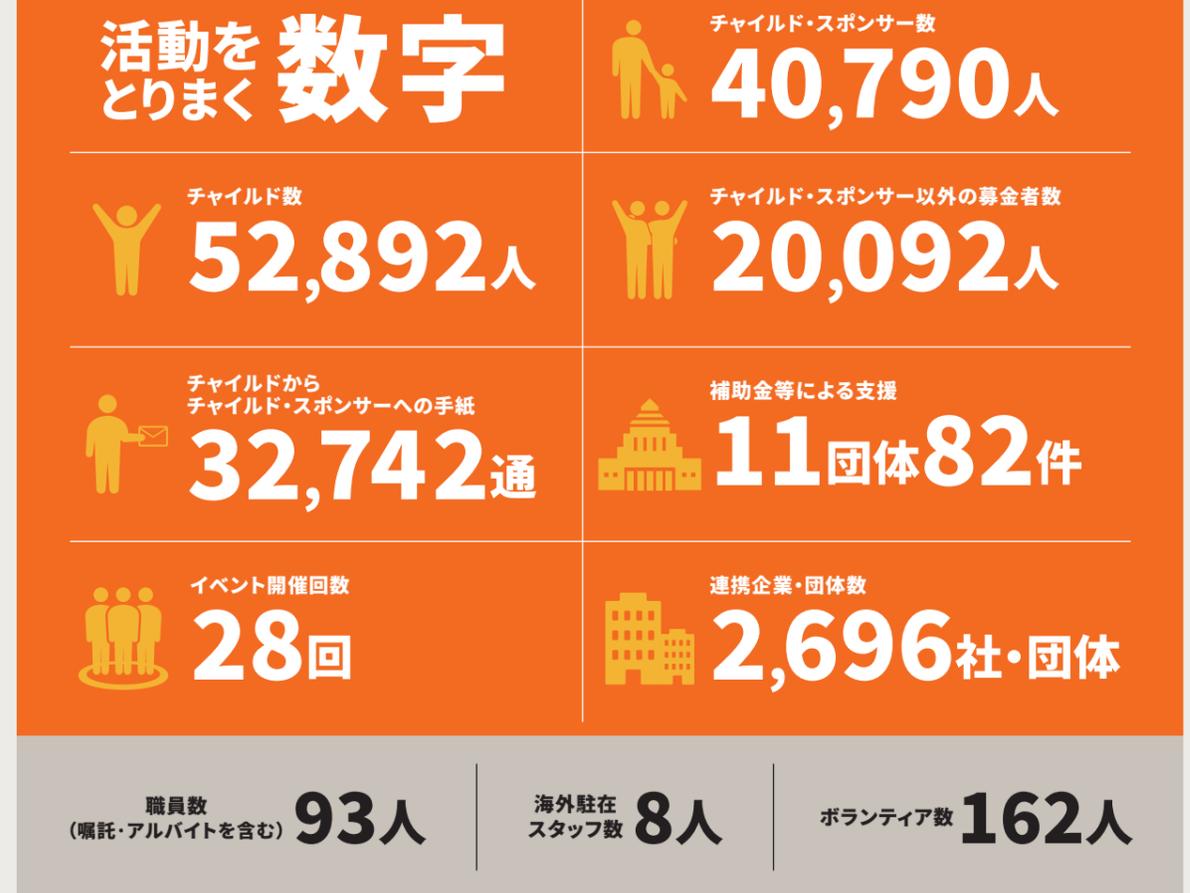
ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2025年度の活動概要を、数字でご紹介します。



### 活動国・事業数



### 活動をとりまく数字



### 資金の集め方

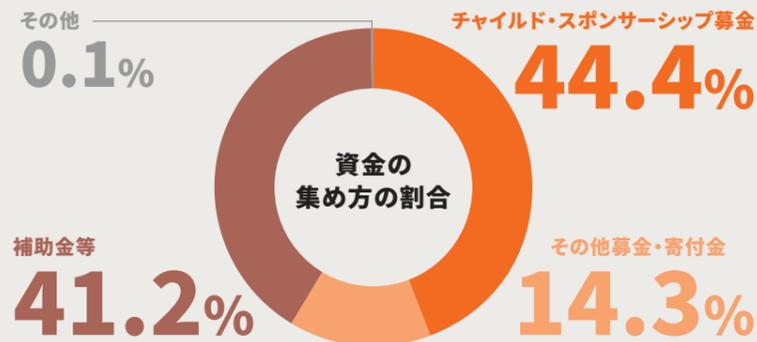
#### 2025年度の経常収益

詳しい会計報告はP24をご覧ください。

# 63億1,606万円

#### 資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約4割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



### 資金の使い方

#### 2025年度の経常費用

詳しい会計報告はP24をご覧ください。

# 67億802万円

#### 資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため

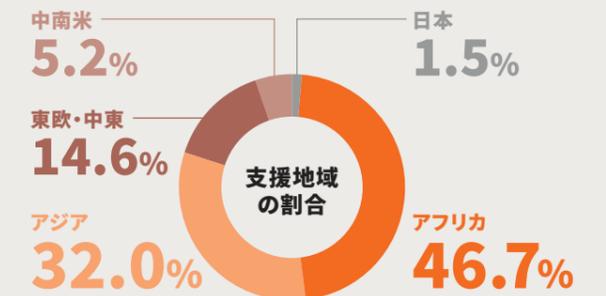
1.6%

広報活動のため

16.3%

現地事業活動のため

82.1%



# ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界36カ国で149の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2025年度は世界36カ国で149の事業を実施しました。



## 各国駐在スタッフ(2025年度)

渡邊 裕子	ヨルダン	2015年3月～
古田 ちあき	イラク	2022年10月～2025年8月
古徳 理歩	ウガンダ	2023年3月～
池之谷 理恵	ヨルダン	2023年4月～
小園 若菜美	ラオス	2023年5月～
李 義真	バングラデシュ	2023年7月～
遠藤 拓海	ケニア	2023年8月～
加藤 奈保美	ネパール	2024年4月～

### アフリカ



開発援助  
給水ポイントにて運営者と木戸(右)・土原(左)スタッフ(ケニア)



開発援助  
月経衛生啓発キャンペーンの様子(ルワンダのニャガタレ地域)



開発援助  
支援している小学校の子どもと古徳スタッフ(右/ウガンダのロバランギット・カレンガ地域)



開発援助  
浄水システムにて地域の子もたちと遠藤スタッフ(右/ケニア)



緊急人道支援  
支援先のクリニックで栄養状態の計測を行う平井スタッフ(右/ソマリア)

### 東欧・中東



緊急人道支援  
給水施設が復旧し、笑顔あふれる子ども(アフガニスタン)



緊急人道支援  
点字教材を使って授業を受ける子どもと池之谷スタッフ(中央/ヨルダン)

### アジア



開発援助  
支援している小学校の子どもたちと野本スタッフ(中央左/フィリピンのレイテ地域)



開発援助  
支援地域の子もたちと徳永スタッフ(左/カンボジアのトモ・プオ地域)



開発援助  
支援対象の最貧困世帯と李スタッフ(前列右/バングラデシュ)



開発援助  
支援地域の女性たちと加藤スタッフ(左/ネパール)

### 中南米



開発援助  
数学クラブに参加する子どもたち(エルサルバドルのサンアグスティン地域)



開発援助  
乳牛飼料の加工を扱うワークショップに参加する農家(エクアドルのブンガラ地域)

## WVJが事業を実施している国

#### アフリカ

コンゴ民主共和国  
エスワティニ(スワジランド)  
エチオピア  
ルワンダ  
スーダン  
ブルンジ

#### 東欧・中東

アフガニスタン  
イラク  
レバノン  
ルーマニア  
ウクライナ

#### アジア

バングラデシュ  
カンボジア  
ミャンマー  
フィリピン  
ベトナム  
日本  
インドネシア  
モンゴル

#### 中南米

エクアドル  
エルサルバドル  
グアテマラ



開発援助  
水衛生の備品を供与した学校の関係者と千葉・小園スタッフ(右から3、4人目)(ラオス)

### 国内



緊急人道支援  
子どもの居場所「みんなのへや」で手芸をする子どもと大久保スタッフ(右)

開発  
援助

# 地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

## 保健・栄養 健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・研修を行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



支援のおかげで、右目をけがした女の子が必要な治療を受けることができました  
(サンブワ地域/コンゴ民主共和国)

## 生計向上 家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



支援や研修をきっかけに、貧困にある人々が安定した収入を得る道を見つけました  
(ピロル地域/バングラデシュ)



## 教育 学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師への研修を行います。



「文字を読むことが苦手だったばかりも、補習のおかげで本を上手に読むようになりました」  
(サマル地域/フィリピン)

## 水衛生 安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



「水道ができて安全な水を飲めるようになり、病気にかからなくなりました」  
(ゲゲ地域/エスワティニ)

## 子どもの保護 子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・研修等を行います。



「研修やワークショップを重ねながら、自分たちの文化を大切にする活動を続けています」  
(コルタ地域/エクアドル)

## チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

### 準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

### 開始

それぞれの支援地域のニーズに合わせて、水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の活動を行います。進めます。

### 活動が進みます

せて、水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、事業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

### 卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

### 卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

#### 実施中

##### アフリカ

ロバランギット・カレンガ、プリンダ(ウガンダ)、ゴンチャ(エチオピア)、ゲゲ(エスワティニ)、イラマタク、キアムボゴ(ケニア)、サンブワ、ルアラバ(コンゴ民主共和国)、ルテンデ(タンザニア)、イソガ、グウィザ、ニャガタレ(ルワンダ)、ブケイ(ブルンジ)

##### アジア

トモ・ブオ、ボレイ・チュルサール(カンボジア)、リディマリヤッタ(スリランカ)、西ドティ、バジャン、バンケ・ジャナキ(ネパール)、イスラムプール、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(バングラデシュ)、エステ、サマル、レイテ(フィリピン)、ソンハ、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、カンディタン(ミャンマー)

##### 中南米

コルタ、ブンガラ(エクアドル)、サンタ・マリア・カアボン、チセク(グアテマラ)、サンアグスティン(エルサルバドル)

#### 2025年度に卒業

##### アフリカ

キラムルジ(ルワンダ)  
ゴロワ、ムキンガ(タンザニア)

開発  
援助

# チャイルド・スポンサーシップ

38の地域 開発プログラムを世界中で継続しました。そのうち3つの地域での成果をご紹介します。

グアテマラからの報告

## チセク地域開発プログラム

支援期間 2022年～2033年



### 支援の背景 不十分な衛生環境と保護者不在リスクが課題

貧困や衛生設備・知識の不足により、子どもたちの胃腸疾患や急性栄養失調が深刻となっています。家庭や学校のトイレ整備や排泄物管理も不十分で改善が急務です。さらに、出稼ぎによる保護者不在が、暴力や虐待のリスクを高めています。

チセク地域の子どもたち ▶



### 2025年度の主な成果

#### 水衛生

地域リーダーや住民を対象に衛生研修を行い、家庭での衛生習慣や排泄物の適切な管理を啓発しました。これらの活動を受けて、家庭や学校に改良型トイレ180基を建設し、約900人の生活環境が改善されました。

建設中の改良型トイレ



#### 子どもの保護

子どもの保護研修を住民85人に実施し、暴力防止や通報手続きの周知を通じて、地域の保護体制を強化しました。さらに、現地語のケクチ語を話せる心理士や弁護士と連携し、性的虐待の予防と支援にも取り組んでいます。

子どもの保護研修の様子



ウガンダからの報告

## ロバランギット・カレンガ地域開発プログラム

支援期間 2019年～2030年



### 支援の背景 飢餓や貧困が最も深刻な地域

半乾燥地帯という地理条件と不安定な治安により、国内でも飢餓や貧困が特に深刻な地域です。社会インフラや衛生知識が不足し、屋外排泄が多く子どもたちに感染症が拡大しています。さらに10歳以上の約7割に就学経験がなく、教育への理解も十分ではありません。保健ワーカーによる健康チェックを受ける子どもたち ▶



### 2025年度の主な成果

#### 水衛生

井戸1基の建設に加え、衛生意識の向上を促す研修や、モニタリングを通じた家庭でのトイレ建設支援を実施しました。その結果、基本的な衛生設備を利用できる世帯の割合は、15.7% (2021年) から50.6% (2025年) へと改善しました。

建設された井戸



#### 教育

子どもの識字能力向上を目指し、地域ボランティアによる読書クラブの運営や教員研修を行いました。その成果として、小学3年生で必要な読み書きができる児童の割合は、36.1% (2023年) から64% (2025年) へと向上しました。

読書クラブでの活動の様子



ネパールからの報告

## バンケ・ジャナキ地域開発プログラム

支援期間 2024年～2034年



### 支援の背景 長時間の水汲みが女性と女の子の暮らしを圧迫

水が手に入りにくいこの地域では、女性や女の子が何時間もかけて水汲みをしています。その影響で勉強時間が減り、学校を休みがちなお子もいます。また、保護者が水汲みに追われるため、子どもと過ごす時間が減り、家庭で十分な支援ができなくなっています。

水汲みをする女性と女の子 ▶



### 2025年度の主な成果

#### 教育

子どもたちが文字や本に親しめるよう、「リーディング・キャンプ」を定期的実施しています。こうした取り組みにより、活動に参加する子どもと家族の割合は、19.7% (2021年) から77.9% (2025年) へと大きく向上しました。

リーディングキャンプで絵本の読み聞かせやゲームを楽しむ子どもたち



#### 子どもの保護

子どもの権利に関する啓発活動や、若者が効果的な表現方法を学ぶ取り組みの結果、子どもたちの声が地域づくりに活かされるようになり、地域の計画策定に自分の意見が反映されたと感じる若者は、37.2% (2025年) となりました。

地域の行政担当官に地域開発計画と予算案を手渡すユースメンバー



## チャイルド・スポンサーシップ支援の成果 スポンサーとのつながり 支援地訪問ツアー



### 笑顔あり、涙あり。チャイルドと心通わせたルワンダの旅



温かい時間をともにしたスポンサーの皆さまとチャイルドたち

2025年3月、アフリカ東部のルワンダで支援地訪問ツアーを実施しました。チャイルドとの交流をはじめ、支援を受けた家庭や学校の訪問、ルワンダ独自の取り組みである「平和の木」プロジェクトの視察など、多彩なプログラムを体験しました。

ハイライトとなったのは、やはり、チャイルドとの交流です。互いに目を見つめて言葉を交わし、走り回って笑い合い、折り紙を通して気持ちを伝え合う—そんな一つひとつの時間が、記憶に残るひとときとなりました。別れの瞬間には涙がこぼれる場面も。スポンサーの皆さまがチャイルドと共有してくださった温かい時間が、大きな喜びとなった訪問でした。

# 開発援助 チャイルド・スポンサーシップ

## 支援卒業(終了)報告

チャイルド・スポンサーの皆さまのご支援により、2025年度は3つの地域開発プログラムが支援卒業(終了)を迎えました。そのうちの1つである、ムキンガ地域(タンザニア)での活動の成果をご紹介します。

### 支援卒業報告

#### タンザニア ムキンガ地域開発プログラム

支援期間 2009年～2025年



## 地域に寄り添った支援の取り組みが実を結び、子どもたちの明るい未来が着実に育まれています

ムキンガ地域では、子どもたちの暮らしを支える環境が大きく改善しました。これまで住民は、遠くの川まで片道数時間をかけて水汲みに行く必要がありましたが、給水設備の整備と住民主体の管理体制づくりにより、地域内で安全な水を利用できるようになりました。手洗い習慣の広がりとおわせて、子どもたちの健康状態も改善しています。また、狭く老朽化した教室や学校設備の不足といった課題には、新しい教室や机の整備で対応しました。さらに、学校給食の導入や教員・保護者向け研修を実施し、子どもたちが安心して学べる環境が整えられています。生計面では、農畜産の研修や貯蓄グループの活動が地域に根つき、住民同士が互いに支え合いながら収入を増やすことで、子どもたちの十分な食事や学費を確保できるようになりました。加えて、地域内には診療所が建設され、医療設備やスタッフ体制が整備されました。これにより、必要な医療サービスを身近で受けられるようになり、予防接種の普及とともに子どもたちの命が守られています。



### 活動の成果

小学校の出席率  
**95.2%**(2025年)

徒歩30分以内に水源がある世帯  
**34.5%**(2012年) ▶ **74.1%**(2025年)

予防接種を受けた5歳児  
**66.8%**(2010年) ▶ **90%**(2025年)

### 支援卒業を迎えた地域

タンザニア  
ムキンガ地域  
(2009年～2025年)



タンザニア  
ゴロワ地域  
(2006年～2025年)



ルワンダ  
キラムルジ地域  
(2008年～2025年)



## 支援のおかげで、私の未来への扉が開きました

ムワナミシさんは、両親と5人のきょうだいと暮らしています。勉強が大好きでしたが、農業を営む両親の収入はごくわずかで、制服や文房具を買うこともままならず、学校に通えない時期が続いていました。そんな中、チャイルド・スポンサーシップにより研修を受けた両親は、栽培する野菜の種類を増やし、さらに新たな商売にも取り組むようになりました。その結果、家族は安定した収入を得られるようになり、ムワナミシさんも再び学校へ通えるようになりました。念願の学びを取り戻した彼女は、その後高校を卒業し、短期大学へと進学して経済学を学んでいます。「幼い頃から私を支えてくれたワールド・ビジョン、チャイルド・スポンサーの皆さん、両親、そして地域を助けてくれたすべての人に心から感謝しています」。彼女の言葉には、歩みを支えてくれた人々への深い感謝と、未来へ向かう確かな希望が込められています。



ムワナミシさん(21歳)

### コミュニティの声

#### 支援の成果は次の世代へと受け継いでいきます

ムキンガ地域では、新しい教室や机の整備が進み、子どもたちがより良い環境で学べるようになりました。さらに、住民同士が少額を出し合う貯蓄グループが結成され、融資を受けられるようになったほか、子どもの保護に対する意識も高まり、さまざまな前向きな変化が見られました。ご支援によって生まれた数々の成果は、これからも次の世代へ受け継がれていきます。皆さまの温かいご支援に、心より感謝いたします。

地域開発委員会代表 アスマニさん



### 日本人スタッフから

#### 日本の支援が築いたムキンガの平和

支援終了に際しムキンガ地域を訪問した際、最も心に残ったのは「この地域にもたらされた平和は日本の皆さまのおかげです」という住民の言葉でした。支援開始当初、人々の間には宗教や民族の違いによる偏見があり、そこから対立も生まれていました。しかし、プログラムによる支援を通じて、宗教指導者たちが地域の開発課題に協力して取り組むようになり、平和の維持と発展が実現してきました。皆さまのご支援に、心より感謝いたします。

支援事業部 プログラム・コーディネーター 神田聖光



# 開発 緊急 子どもの保護

事業実施国 ラオス、ネパール、スーダン、ウガンダ、アフガニスタン、ヨルダン、シリア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／  
国連人道問題調整事務所(UNOCHA)／  
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

皆さまからの募金額

■ 児童保護募金	6,160,052円
■ 危機にある子どもたちのための募金	37,254,530円
■ 誕生日記念募金	19,140,000円
■ コミュニティ・サポーター	62,632,000円 ※水・食料、難民支援分含む
■ プロジェクト・サポーター	149,896,500円 ※水・食料、難民支援分含む
■ プロジェクト・サポーター(難民支援)	22,577,500円 ※水・食料、難民支援分含む

## ネパールからの報告

### アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業



#### 支援の背景

#### 脆弱地域の防災と地域力強化が大きな課題に

ネパールでは毎年発生する洪水や地滑りで、弱い立場にある家庭や子どもは安全確保や学びの継続が困難でした。特に災害リスクの高いカルナリ川流域では、防災力強化と安全を守る体制づくりの支援が必要でした。



アチャム郡支援対象コミュニティ



#### 2025年度の主な成果

## 学校での取り組みを通じて、レジリエントな未来を実現していきます

アチャム郡では、災害用語や防災・減災の基礎、ハザードマッピングなどを学ぶ学校向けオリエンテーションを実施しました。240名以上の子どもが参加し、災害の危険性やリスク管理の基本、備えることの重要性を理解する貴重な機会となりました。参加した子どもたちは知識を得るだけでなく、家庭や地域で「安全を伝える担い手」としての役割も果たし始めています。次世代が実践的な知識とスキルを身につけたことで、レジリエンスの種が地域にまかれ、今後さらに育っていくことが期待されます。子どもたちが学んだことを実践し、「変化を生み出す主体」として行動することで、将来起こりうる危険に地域全体で備えられるよう、確かな一歩が踏み出されています。

#### 支援地域からの声

#### 防災の学びが私を守る力になっています

学校の防災オリエンテーションで災害用語や備えの手順、減災の方法、ハザードマップの活用を学び、不安が「行動すれば守れる」という実感に変わりました。家族にも伝え、日頃から備え、災害時に落ち着いて行動できるよう力を伸ばしたいです。

アチャム郡の中学生



#### 数値で見る成果

学校防災活動：防災オリエンテーションに参加した子ども

240人

気候変動に対応した農業研修参加者

500人

多目的避難所建設による受益者

724人(子ども305人)

護岸・植樹などで洪水リスク軽減

208人(子ども62人)

# 開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ラオス、ミャンマー、バングラデシュ、ブルンジ、エチオピア、ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダン、ウガンダ、コンゴ民主共和国、アフガニスタン、レバノン、シリア、トルコ

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／  
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／  
国連人道問題調整事務所(UNOCHA)／  
国連世界食糧計画(WFP)／国際貿易センター(ITC)

#### 皆さまからの募金額

■ クリスマス募金	116,805,229円
■ 水と食糧のための募金	23,836,322円
■ ラブ・ローフ募金	1,539,337円
■ コミュニティ・サポーター	62,632,000円 ※子ども保護、難民支援分含む
■ プロジェクト・サポーター	149,896,500円 ※子ども保護、難民支援分含む
■ プロジェクト・サポーター(難民支援)	22,577,500円 ※子ども保護、難民支援分含む

## ソマリアからの報告

### サウスセントラルにおける干ばつ救援事業



#### 支援の背景

#### 重なる危機の中で取り残される弱い立場の人々

長引く紛争に干ばつや洪水が重なり、食料不足と栄養不良が深刻化しています。多くが国内避難民となり、物価高や失業で生活は悪化。気候変動の影響も大きく、特に子どもや女性が厳しい状況にあります。



干ばつにより家畜を失った男性



#### 2025年度の主な成果

## 支援によって、食の選択肢と家庭の安心が広がっています

ソマリア中南部サウスセントラル地域では、住民や国内避難民を対象に現金と食料交換券を配布しました。各家庭は必要な食料や生活必需品を自由に選んで購入できるようになり、食事の選択肢が広がりました。安定して食材を確保できたことで1日の食事回数が増え、子どもたちの栄養不良の予防・改善にもつながっています。さらに、栄養や衛生に関する情報を伝える啓発活動を実施し、健康的な食生活と衛生習慣の定着を支援しました。また、女性が弱い立場に置かれがちな地域特性を踏まえ、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントに関するメッセージを発信し、男性にも理解と協力を呼びかけました。

#### 支援地域からの声

#### 現金給付が、家族の暮らしに安心をもたらしています

紛争や干ばつで住まいの環境が悪化し、家族とともに60km離れた国内避難民キャンプへ移りました。夫の収入は少なく、1日1回の食事がやっとでしたが、現金給付により必要な食料や生活必需品を買いやすくなり、安心して暮らせるようになりました。

支援を受けたガニさん



#### 数値で見る成果

現金・食料交換券の給付を受けた世帯数

697世帯

現金・食料交換券の給付を受けた人数

4,185人

支援を届けた子ども(18歳以下)

2,595人

現金・食料交換券の給付額(月/人)

1,200円



# 難民・国内避難民支援

## 事業実施国・地域

カンボジア、ミャンマー、バングラデシュ、エチオピア、ルワンダ、ソマリア、南スーダン、スーダン、ウガンダ、コンゴ民主共和国、アフガニスタン、イラク、レバノン、シリア、ヨルダン、ヨルダン川西岸地区、ウクライナ、ルーマニア、モルドバ、ジョージア

## 連携機関

外務省 日本NGO連携無償資金協力／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／国連児童基金(UNICEF)／国連人道問題調整事務所(UNOCHA)／国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／国連開発計画(UNDP)／国連世界食糧計画(WFP)／教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)

## ロヒンギャ難民支援の現場(バングラデシュ)からの報告

### ジェンダーに基づく暴力(GBV)からのコミュニティの予防・対応能力強化事業



GBVのセッションを行う女性のコミュニティリーダー

### 支援をきっかけに地域課題解決を担うリーダーへ成長しました

ミャンマー避難民キャンプとホストコミュニティで2017年から行っている本事業は最終年を迎え、事業を通じて育成された男女のコミュニティリーダーやユースリーダーは、GBV事案をはじめとする地域課題の解決に主体的に取り組んでいます。女性リーダーの一人は「避難民キャンプで活動に出会い、地域のために働くことで生活が明るく前向きになった」と語り、活動継続への自信を見せてくれました。



## ウクライナからの報告

### 教育、メンタルヘルス、生計向上などの支援活動を拡大し、ウクライナと周辺4カ国で、3年半の間に230万人を支援



保護プログラムの支援を受け、シェルターで暮らすアナさん(左)とダニーロくん(8カ月)



紛争の中で不安を抱える子どもたちが、物語を通して気持ちを整理できるよう制作された絵本

## コンゴ民主共和国からの報告

### 東部の戦闘激化で危機に拍車、2,700万人が支援を命綱に生きる



戦禍を逃れてきた人々を支援するセンターで、穀物や油の配給を受けるシファさんとアマちゃん(1歳)

## 皆さまからの募金額

■ 難民支援募金	87,805,415円	■ ミャンマー難民危機緊急支援募金	409,500円
■ コミュニティ・サポーター	62,632,000円 <small>※水・食糧、子ども保護分含む</small>	■ シリア緊急支援募金	1,195,747円
■ プロジェクト・サポーター	149,896,500円 <small>※水・食糧、子ども保護分含む</small>	■ 中東人道危機募金	1,526,496円
■ プロジェクト・サポーター(難民支援)	22,577,500円 <small>※水・食糧、子ども保護分含む</small>	■ パレスチナ緊急支援募金	3,318,650円
		■ ウクライナ危機緊急支援募金	1,493,542円

## シリアからの報告

### シリアにおける教育支援事業



心理社会的支援のセッションに参加する生徒たち

### 公立学校の運営支援を通じ、安全に学べる環境を実現しました

国内避難民が多く暮らす地域で、公立の中・高等学校を修復・開校し、運営を支援しました。あわせて、生徒への心理社会的支援や、教員への危機下における教育研修を実施。これにより、国内避難民キャンプに暮らす高学年の子どもたちが、安全な学習環境で学べるようになってきました。事業期間中は政権交代に伴う生徒の転出入がありました。多くの生徒が高い出席率を維持しています。



## ヨルダンからの報告

### すべての子どもたちに学びの機会を



補助教員に支えられ、補助器具を使って授業に参加する視覚障害のあるシリア難民の女の子

## 中東危機対応からの報告

### 2023年10月以降、ヨルダン川西岸地区で100万人以上、レバノンで約59万人の命と生活を支援



医療アクセスが制限される中、WVが支援するクリニックが頼みの綱に(ヨルダン川西岸地区)



ジャパン・プラットフォーム(JPF)と連携し、避難生活を送る人々に緊急食料支援を実施(レバノン)

# 緊急 アドボカシー 国内子ども支援事業

子どもの居場所運営や子どもの権利の啓発活動に加え、入学祝い金の支給、民間シェルターに対する活動資金の助成を全国規模で展開するなど活動の幅を広げています。

## 子どもの居場所「みんなのへや」

ワールド・ビジョン・ジャパン事務所がある東京都中野区で運営する「みんなのへや」は、計49回開催され、延べ587名の子どもたちが参加しました。地域の方々や企業から、ボランティア派遣や食材提供などの協力を得て、放課後や長期休みに子どもが安心して過ごせる居場所としての役割を継続しています。



子どもとスタッフで作業を楽しむ様子

**参加した子どもの声**  
友だちがいっぱいで楽しい

**保護者の声**  
自宅ではなかなか食べないものに挑戦したり、できなかったことに取り組めたりするのが、とてもありがたいです

**地域の子ども支援関係者の声**  
「みんなのへや」は、地域の子どもや保護者のニーズを丁寧に受け止めながら、継続し成長している取り組み。子どもたちにとって大切な居場所になっていると感じています

## ワールド・ビジョン・ジャパン全国入学祝い金

厳しい社会経済環境のなか、進学や入学後にかかる費用による家計負担を少しでも軽減し、子どもたちの大切な学びの機会を支えることを目的に、全国の新中学生・新高校生（2025年度入学）を対象として「ワールド・ビジョン・ジャパン全国入学祝い金」を実施しました。当初200名を予定していましたが、定員を大幅に上回る1,478名の応募があったため、支給者数を220名に拡大。審査の結果、新中学生90名に現金3万円と図書カード5千円分、新高校生130名に現金5万円と図書カード1万円分を贈呈しました。



お祝い金で購入したシューズ、バッグ、本

**保護者の声**

卓球クラブで使うシューズやバッグ、本を購入し、夏期講習の費用にも充てることができました。おかげで息子は、他の家庭の子どもたちと変わることなく、学業や部活動に打ち込めています。感謝の気持ちでいっぱいです。

(複数の保護者の方からのメッセージより抜粋)

## 民間シェルター等への助成金

DV・虐待等により特に脆弱な環境にある子どもや親子を支援するため、2021年より全国のDV・虐待被害者等を対象とした宿泊型支援（民間シェルター等）への活動資金助成を実施しています。2025年度は、2024年度に助成を開始した11団体の活動をモニタリングしました。助成金は、宿泊型支援や生活支援（食・学習・居住）、相談、同行支援、自立・回復支援、人件費等に活用され、助成先からは「支援体制の拡充につながった」との声が寄せられました。

2024～2025年度助成先 (団体名五十音順)
認定NPO法人いくの学園 (大阪府大阪市)
特定非営利活動法人オカヤマビューティサミット (岡山県岡山市)
特定非営利活動法人オフィス・マハロ (愛知県小牧市)
特定非営利活動法人女のスペース・おん (北海道札幌市)
認定特定非営利活動法人こどもの里 (大阪府大阪市)
認定NPO法人CPAO (大阪府大阪市)
認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ (兵庫県)
一般社団法人女性と子どものエンパワメント研究所 (福岡県久留米市)
特定非営利活動法人女性ネットSaya-Saya (東京都)
特定非営利活動法人DV対策センター (神奈川県横浜市)
一般社団法人白鳥の森 (徳島県徳島市)

# アドボカシー

## 市民社会の視点からSDGsの現在地を確認

SDGsの達成期限まで5年となった今年、日本政府はSDGsに関する自己評価である「自発的国別レビュー (VNR)」を国連本部で発表しています。これに向けてワールド・ビジョン・ジャパンは、「SDGs市民社会ネットワーク (SDGs ジャパン)」開発ユニットの幹事として、市民社会によるスポットライトレポートのとりまとめを行うとともに、政府との政策対話に参加し、VNRレポートへのインプットを実施しました。その結果、過去2回のVNRと比べ、市民社会の意義ある参画や意見が確保・反映された内容となっています。また、ニューヨークの国連本部で開催されたハイレベル政治フォーラム (HLPF) への参加に加え、SDGsジャパンによる現地中継イベントなど、複数の機会に登壇しました。



ニューヨークのハイレベル政治フォーラムでの日本政府によるVNRの様子

## 子どもに対する暴力撤廃 (EVAC) に向けて

今年度、国内外で子どもへの暴力撤廃に向けた動きが大きく加速しています。2024年11月には、コロンビア・ポゴタで史上最大規模となる「第1回子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル閣僚会議」が開催され、ワールド・ビジョン・ジャパンも参加しました。130カ国80人の大臣を含む約1,400人が集い、高い政治的意思が示されています。この潮流を日本に伝えるため、ワールド・ビジョン・ジャパンが設立・運営の中心的役割を担う「EVAC日本フォーラム」では、2025年3月にオンラインで参加報告会を実施し、会議成果の活用について議論しました。さらに5月には、国連事務総長特別代表ナジャット・マラー・ムジート氏や、閣僚会議に参加したこども家庭庁を招き、国連大学でシンポジウムを開催しています。



国連事務総長特別代表ナジャット・マラー・ムジート氏 (写真中央) を迎え国連大学にて開催したシンポジウムにて。左端は柴田スタッフ (2025年5月)

## 「子どもの権利写真展」開催

ワールド・ビジョン・ジャパンは、すべての子どもが生まれながら持つ「子どもの権利」が実現する世界を目指して活動しています。日本は「子どもの権利条約」の締約国ですが、「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」といった権利が、十分に守られていない状況です。こうした課題を社会に広く伝えるため、2019年から「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」の実行委員団体として活動しています。また、2022年以降は毎年、11月20日の世界子どもの日に合わせ、中野区立中野東図書館で「子どもの権利写真展」を開催しています。今年度は2024年10月26日から12月26日まで実施しました。



「子どもの権利写真展」の様子

## 企業・団体との連携

### 2,696社・団体から、総額408,412,347円の寄付をお寄せいただきました。

企業・団体の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力等、様々な支援・協力をいただきました。

### 2025年度支援事例紹介(一部)

#### 特別プロジェクトによる支援



**塩野義製薬株式会社**  
ご法人とSHIONOGIグループ社員からのご寄付をもとに、アフリカの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」を支援いただいています。2025年度は第3期事業（ケニアナクル県）を実施しました。



**富士通株式会社**  
フィリピンの6つの学校を対象に、ICT教室の整備や学習ツール配布、ICT教育の充実を進めるプロジェクトを支援いただいています。学習環境を改善し、子どもたちが情報化社会でより良く生きるための機会提供を目指す取り組みです。



**株式会社JYPエンターテインメント・ジャパン**  
JYPエンターテインメントが展開する社会貢献プログラムEDM (Every Dream Matters!)により支援いただいています。プログラム開始から5年となる2025年度は、バングラデシュとモンゴルでの「最も弱い立場にある子どもたちのための医療費支援プロジェクト」を実施しました。

#### チャイルド・スポンサーシップ等を通して



**山崎製パン株式会社**  
チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援いただきました。またヤマザキ「ラブ・ローフ募金」により、ウガンダでの小学校環境改善事業を実施しました。



**株式会社 山田養蜂場**  
アジア・アフリカ・中南米の13カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。また、お手紙のやり取りを通じて、社員の方々がチャイルドとの温かな交流を続けてくださっています。



**株式会社チュチュアンナ**  
長年にわたり、25人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。また2025年度は、「国内子ども支援募金」にもご協力いただきました。



**三菱自動車工業株式会社**  
長年にわたりチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。また、特別プロジェクトを通して、インドネシアのマングローブ林再生事業を支援いただいています。



**パナソニック ホールディングス株式会社**  
ケニア、ベトナムなどの無電化地域に、ソーラーランタンの寄贈をくださっています。「みんなで“AKARI”アクション」の新たな展開として「学校向け特別企画」をWJとパートナーシップでスタート。来年度に支援地の学校での配布と、参加してくださった日本の学校の皆さまへの報告を行う予定です。



**玉の肌株式会社**  
20年以上の長きにわたって国内外の子どもたちを支援いただき、関係会社とあわせて100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。

#### 商品・サービスの売り上げからの寄付



**株式会社中央軒煎餅**  
製造工程で欠けたあられやお煎餅を使用した商品「Kakecco (かけっこ)」の売り上げの一部を、「水と食糧のための募金」に寄付いただいています。美味しいお煎餅を食べながら、気軽に社会貢献できる一品です。

### 支援・協力をいただいた企業・団体(一部)

 株式会社タイセイ	 クラウドバンク・グループ	 ヒロセ通商株式会社
 株式会社中山トータルライフ	 ファルマ・ソリューションズ株式会社	 株式会社レントラックス
 野村ホールディングス株式会社	 プレコグループ	 セイコーエプソン株式会社
 ジースプレッド株式会社	 株式会社アプリシエイト	 株式会社シンシア
 日清製粉株式会社	 株式会社奥誠環境商事	 ハニカム・テクノロジー株式会社
 株式会社プチファーマシスト	 LINEヤフー株式会社	 有限会社香取運輸
 株式会社不二家	 株式会社ブルマーレ	 株式会社リアルト・ハーツ
株式会社秋山住研 株式会社オカムラ 株式会社たやうち 三菱自動車STEP募金 キャリアインキュベーション株式会社 株式会社 Peace Real Estate 株式会社ウチヤマホールディングス	株式会社 FDJ 株式会社シーブランド オリエンタル酵母工業株式会社 株式会社テレコマンド 加茂水道工業株式会社 株式会社BOLS・1987 ミヨシ油脂株式会社	アキバ食品機械株式会社 株式会社マスバック 若尾製菓株式会社 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 株式会社フジカダス 医療法人真芳会 医療法人社団煌の会山下湘南夢クリニック
捜真小学校 梅光学院大学 梅光学院中学校・高等学校 青山学院初等部 三鷹小鳩幼稚園	日進ベタニヤ幼稚園 博多高等学校 愛徳学園小学校 玉川聖学院中等部・高等部 生徒会	国際基督教大学高等学校 キリスト教活動委員会 愛恵幼稚園 清和女子中高等学校 恵泉女学園中学校・高等学校 信和会宗教部
荻窪栄光教会 八尾福音教会 日本福音同盟 グレースコミュニティ	福岡ハーベスト教会 東京ユニオンチャーチ 東京第一教会 東京FM小井教会	淀橋教会 蒲田シオン・キリスト教会 プレッシング・チャーチ・インターナショナル

## 皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) の活動に参加していただいています。

### 「森をつくる人」気候変動アドバイザー トニー・リナウドを迎えて

## 森の再生がもたらす希望のメッセージを届けるイベントを開催



チャイルド・スポンサーのLiLiCoさん(映画コメンテーター)を特別ゲストにお迎えして実施した映画イベント。右から、WVJ松岡スタッフ、トニー、LiLiCoさん、WVJ望月スタッフ

企業・団体向けシンポジウムを開催し、JICA、三菱自動車工業株式会社からもパネリストとしてご登壇いただきました

2024年10月、ワールド・ビジョン・オーストラリアの気候変動対策アドバイザー、トニー・リナウドが来日しました。彼は、植樹をせず地中に残る根を再生することで森をよみがえらせる「住民主体の自然再生アプローチ (FMNR: Farmer Managed Natural Regeneration)」を開発。そのドキュメンタリー映画『The Forest Maker』の上映イベントを開催しました。FMNRは、シンプルで安価ながら迅速な緑化を可能にし、CO<sub>2</sub>削減にも貢献する手法として国連機関からも推奨され、現在はアフリカやアジアを中心に40カ国以上へ広がっています。トニーは映画イベントに加え、企業・団体向けシンポジウムに登壇し、学校も訪問。森の再生によって飢餓



や貧困が軽減され、希望が回復している現状と、その背景にあるストーリーを伝え、「勇気を出して行動することから希望は始まる」というメッセージを届けました。

### 遺贈・相続財産からの寄付

## あなたの想いを、未来に届ける

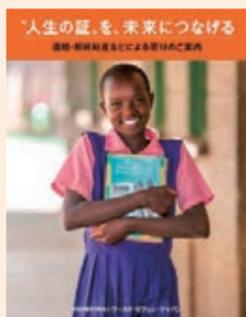
2025年度は、13件の遺贈・相続財産からのご寄付をお預かりしました。また、専門家を招いた終活セミナーや個別相談会を定期的に行い、好評をいただきました。近年は、相続人のいない方や、ワールド・ビジョン・ジャパンの支援者以外の方からのお問合せ、ご寄付が増えています。お一人おひとりの「人生の証」であるご寄付を大切に受け止め、ご遺志を確実に未来へつなげるため、これからも取り組んでまいります。

### ご相談・お問い合わせは

電話  
03-5334-5355  
(平日 10:00~17:00)

メール  
donation@worldvision.or.jp

詳しいパンフレット(無料)もご用意しています。お気軽にご相談ください。 >>>>



### 国内子ども支援への協力

## 次世代をともに育んでいます

株式会社オカムラ様は、子どもたちの健やかな育ちへの思いを共有するパートナーとして、国内子ども支援に大きく貢献してくださっています。能登半島地震では募金と家具寄付を通じて子どもの居場所づくりを支援。経済的困難を抱える家庭の子どもたちには、入学お祝い金で応援してくださいました。中村雅行社長の思いとともに、人が生き活きと働き暮らす社会の実現を目指す同社の精神が、社会への還元として形となったご支援です。



株式会社オカムラ代表取締役社長執行役員 中村雅行様に感謝状をお渡しするWVJ前事務局長 木内

### グローバル教育 & ユースとの取り組み

## サマースクール開催は20年目を迎えました



途上国の子どもたちの「水汲み」を体験するサマースクール参加者の小学生と、サポートをするユースボランティア

世界の課題解決に向けて、一步を踏み出すきっかけを届けたい。その思いから、未就学児から大学生までを対象に「グローバル教育」を実施しています。ワールド・ビジョンが現場で出会った子どもたちのリアルなストーリーを通して、紛争や災害をはじめ、貧困・飢餓・水衛生など、途上国の子どもたちが直面する課題を伝えるために多くの教育プログラムを実施してきました。参加後は、インターンやボランティア、イベント参加へと、自ら行動を起こすユースも増えています。小学生向けイベント「サマースクール」は20年目を迎え、今年度は文部科学省の後援のもと7回開催。全国から小学生と保護者782人が参加しました。



大学生を対象に世界の子どもたちを取り巻く課題の講義を実施(明治学院大学にて)

グローバル教育参加者	講師派遣	事務所訪問	サマースクール	グローバルフェスタ	教材利用
10,956人	82回 9,460人	18回 167人	7回 782人	431人	116人

### ワールド・ビジョン・カフェ

## 支援の先にある、子どもたちの“いま”を報告

チャイルド・スポンサーシップによる活動報告と参加者同士の交流を目的に、「ワールド・ビジョン・カフェ (WVカフェ)」を東京と大阪で開催しました。テーマは「支援地と子どもたちのリアル」。3月に催行したルワンダの支援地訪問ツアーの報告を中心に、現地の子どもの暮らしぶりや支援の成果を伝えました。参加者からは、「今までは漠然と支援をしてきたが、より具体的なイメージを持つことができた」といった声が寄せられました。



WVカフェin東京にご参加くださった皆さま(2025年5月10日)

### ボランティア

## 支援者と子どもをつなぐボランティアの力

162人のボランティアの皆さまに、支援者と支援地の子どもたちをつなぐ活動を中心に支えていただきました。ボランティア感謝会には、新規募集を停止していたコロナ禍後に新たにボランティアを始めてくださった方や、日頃は在宅でチャイルド・スポンサーシップの手紙の翻訳をしてくださる方々も含め20人が参加。笑顔あふれる楽しく温かい交流のひと時となりました。



ボランティア感謝会にご参加くださった皆さまとスタッフ

# 子どもたちへ 希望を迅速に届ける

災害発生時、ワールド・ビジョンは最も弱い立場に置かれる子どもたちを守り、復興への希望を見いだす支援を全力で行います。2025年度に国内外で行った3つの支援活動について報告します。

## ① 能登半島地震緊急支援

2024年1月、令和6年能登半島地震の発生直後から、石川県能登地方で緊急支援を実施し、のべ5,607人に支援を届けました。2025年度には、地域外での遊びのイベント開催や、高校生の学びを支える学習支援金(図書カード)の贈呈などに取り組みました。さらに、2024年9月末の豪雨で被災した仮設住宅へ、寝具セットの追加支援も行いました。 [学習支援金\(図書カード\)を受け取った輪島市の高校生 ▶](#)



のべ5,607人に支援を届けました ( )内は子どもの数					
初期支援	子どもの居場所・遊びの支援	学校等の再開支援	子どもを支援するおとなへの支援	仮設住宅への物資支援	高校生への学習支援金
360人 (170人)	1,235人 (502人)	1,501人 (1,381人)	37人	1,609人 (102人)	865人 (865人)

支援期間：2024年1月～2025年5月

## ② ミャンマー中部地震緊急支援

国内の紛争や政変で困難な状況にあったミャンマーを襲った2025年3月28日の地震は、人々の生活と心に深い傷を残しました。一瞬にして日常を奪われた人々に、ワールド・ビジョンは安全な水や食料、避難用品を届け、子どもが安心できる場と心のケアを提供しました。今後も人々に寄り添いながら復興支援を続けます。 [CFSでの遊びを通じた活動\(中央に立っている女性/中村スタッフ\) ▶](#)



458,216人に支援を届けました				
チャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)*の実施	シェルター、衛生用品等の配布	飲料水、浄水キットの配布	ビスケット、米、インスタント麺などの配布	心の健康やストレス対処について学ぶ機会の提供
11,101人	54,577人	114,967人	238,188人	18,329人

\*CFS:子どもたちが安心して安全に過ごせる居場所

## ③ アフガニスタン東部地震被災者支援

2025年8月31日、マグニチュード6.0の地震がクナル州などを襲いました。ワールド・ビジョンは、家や生計手段を失った人々250世帯に、テントなど緊急支援キットを配布し、直ちに支援を開始。地域住民の力を活かしつつ、安全な水の確保やトイレの設置、衛生啓発活動、食料支援などを、現地団体と連携して継続していきます。



緊急支援キットを受け取る被災者



被災者に苦情や要望を伝える方法を説明する現地連携団体の職員

## 2025年度 会計報告

正味財産増減の状況 2024年10月1日より2025年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減			
経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	2,805,702	
	受取その他募金・寄付金(1)	904,063	3,709,765
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	611,841	
(2)	民間団体からの受取助成金等	218,305	
	国連機関からの受取委託金等	1,772,795	2,602,941
3 受取会費			640
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益			2,709
経常収益合計(A)			6,316,055
経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	5,491,866	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	5,299,120	
	地域開発援助事業管理費(5)	192,746	
	人材派遣費(3)	16,414	
	啓発教育費	1,095,659	
	各種啓発教育費(4)	647,308	
	啓発教育事業管理費(5)	448,351	6,603,939
2 管理費(5)			104,083
経常費用合計(B)			6,708,022
経常外収益			
1 固定資産売却益			117
経常外収益合計(C)			117
経常外費用			
1 固定資産売却損・除却損			36
経常外費用合計(D)			36
当期一般正味財産増減額(A+C)-(B+D)			-391,886
一般正味財産期首残高			1,730,718
一般正味財産期末残高(E)			1,338,832
II. 指定正味財産増減			
当期指定正味財産増減額			53,805
指定正味財産期首残高			571,281
指定正味財産期末残高(6)(F)			625,086
III. 正味財産期末残高			
正味財産期末残高(※※)(E)+(F)			1,963,918

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費1,443千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)～(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2025年度財務諸表等(2024年10月1日より2025年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2025年11月20日 森岡伸介公認会計士事務所による監査

2025年12月 1日 監事による監査

### 【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。  
チャイルド・スポンサーシップ募金：「受取スポンサーシップ募金」  
その他募金・寄付金：「受取その他募金・寄付金」  
補助金等：「受取補助金等」  
その他：「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。  
現地事業活動のため：「地域開発援助事業費」「人材派遣費」  
広報活動のため：「啓発教育費」  
団体の運営・管理のため：「管理費」

資産・負債の状況 2025年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部		
1 流動資産	現金預金	547,172
	前払金	482,668
	立替金	49,614
	未収金	2,896
	仮払金	10,650
	その他流動資産	519
2 固定資産		825
	基本財産	1,788,125
	特定資産(6)	50,000
	補助金・助成金・委託金引当資産	1,669,554
	地域開発援助事業引当資産	625,086
	その他特定資産	855,000
	その他固定資産(7)	189,468
		68,571
資産合計		2,335,297
II. 負債の部		
1 流動負債	未払金	181,911
	預り金	153,004
	賞与引当金	2,296
	未払法人税等	26,541
		70
2 固定負債		189,468
	退職給付引当金	189,468
負債合計		371,379
III. 正味財産の部		
1 指定正味財産		625,086
	(うち特定資産(6)への充当額)	(625,086)
2 一般正味財産		1,338,832
	(うち基本財産への充当額)	(50,000)
	(うち特定資産(6)への充当額)	(855,000)
正味財産合計		1,963,918
負債及び正味財産合計		2,335,297



# 会計報告の注記

## ●重要な会計方針の要約

- 財務諸表の作成基準：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」（2008年4月11日 2020年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会）に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 固定資産の減価償却について：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。

### (1) 受取その他募金・寄付金の内訳 (単位:千円)

児童保護募金	6,160
誕生日記念募金	19,140
危機にある子どもたちのための募金	37,255
ラブ・ロープ募金	12,373
うちラブ・ロープ募金	1,540
うちヤマザキ『ラブ・ロープ』募金	10,833
緊急援助募金	55,108
うちウクライナ危機緊急支援募金	1,494
うち能登半島地震緊急支援募金	4,414
うちシリア緊急支援募金	1,196
うちパレスチナ緊急支援募金	3,319
うち中東人道危機募金	1,526
うちミャンマー難民危機緊急支援募金	410
うちミャンマー中部地震緊急支援募金	38,347
うちアフガニスタン地震緊急支援募金	299
クリスマス募金	116,805
水と食糧のための募金	23,836
難民支援募金	87,805
国内子ども支援	60,052
コミュニティ・サポーター	62,632
プロジェクト・サポーター	149,897
プロジェクト・サポーター (難民支援)	22,577
特別プロジェクト募金	195,695
物資の受入	5,053
その他の募金・寄付金	49,675
<b>受取その他募金・寄付金合計</b>	<b>904,063</b>

### (3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

### (4) 各種啓発教育費の内訳 (単位:千円)

広告費	525,550
各種広告費	454,651
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	70,899
広報費	54,184
年次報告書(2024年度版)制作・発送費等	10,650
団体ホームページ制作費等	34,267
その他の広報活動費	9,267
ニュースレター制作・発送費等	22,553
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	39,573
その他啓発費等	5,448
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	3,242
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,086
活動報告会	327
その他の啓発活動費	793
<b>各種啓発教育費合計</b>	<b>647,308</b>

### (2) 受取補助金等の内訳 (単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	611,841
外務省 日本NGO連携無償資金協力	594,178
エチオピア/アムハラ州フェレゲ・ヒウォット病院の安全・衛生環境改善事業3	577
ヨルダン/イルビッド県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業3	74,862
ラオス/トウムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業2	61,698
ラオス/トウムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業3	17,008
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途78,648千円保有しています。)	
ウガンダ/ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業2	82,380
ウガンダ/ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業3	16,537
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途70,737千円保有しています。)	
ケニア/ホマベイ郡における水・衛生改善事業1	5,045
ケニア/ホマベイ郡における水・衛生改善事業2	95,768
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,595千円保有しています。)	
ケニア/ホマベイ郡における水・衛生改善事業3	141
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途96,636千円保有しています。)	
ネパール/アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業2	56,023
ネパール/アチャム郡およびカイラリ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業3	30,852
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途69,122千円保有しています。)	
バングラデシュ/コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業2	75,778
バングラデシュ/コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業3	12,859
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途49,947千円保有しています。)	
エチオピア/アファール州チフラ郡における安全な水へのアクセス改善事業	10,689
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途67,811千円保有しています。)	
ヨルダン/アンマン県の難民・ホストコミュニティにおける幼稚園・小学校でのインクルーシブ教育促進事業	53,961
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途45,872千円保有しています。)	
外務省 NGOステディ・プログラム(2024年度)	343
独立行政法人国際協力機構 技術協力プロジェクト	17,002
南スーダン国ジェンダーに基づく暴力被害当事者の経済的自立促進プロジェクト(第1期)	17,002
中野区 令和7年度中野区子ども食堂運営助成金	318
民間団体からの受取助成金等	218,305
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	215,110
バングラデシュ/ミャンマー避難民キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からのコミュニティの予防・対応能力強化事業	10,867
バングラデシュ/ミャンマー避難民キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からの保護事業	17,639
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途12,482千円保有しています。)	
イラク/モスル西部における教育と子どもの保護支援事業2	1,972
イラク/モスル西部における教育と子どもの保護支援事業3	7,772
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,379千円保有しています。)	
シリアにおける教育支援事業1	4,690
シリアにおける教育支援事業2	2,128
シリアにおける教育支援事業3	33,877
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,604千円保有しています。)	
シリアの帰還民受入地域における教育支援及び子どもの保護事業	76
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途29,376千円保有しています。)	
シリアにおける栄養巡回サービス提供による栄養改善事業	-19
エチオピア/ティグライ州における緊急水衛生・保健栄養支援事業	-7
スーダン危機国内避難民への水衛生緊急対応事業	2,459
スーダン/南ダルフル州における水衛生緊急対応事業	32,021
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,509千円保有しています。)	
スーダン/紅海州における水衛生支援事業	130
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途47,114千円保有しています。)	
ミャンマー/カチン州における紛争の影響を受けた人々への生活状況の回復支援と子どもの保護事業	9,816
ミャンマー/カチン州における紛争被災者への緊急支援と子どもの保護事業	34,642
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途18,659千円保有しています。)	
ラオス洪水被災者支援事業	25,500
レバノンの脆弱な立場にある紛争被災者への緊急食料支援事業	11,872
ミャンマー中部地震緊急物資支援事業	19,270
ミャンマー/マンダレーにおける地震の影響を受けた子どもの保護事業と緊急物資支援事業	405
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途29,595千円保有しています。)	
パナソニックホールディングス株式会社	255
ベトナム社会主義共和国ムオンチャ地区およびトゥアチュア地区における「ソーラーランタン寄贈事業」	255
World Vision International	2,940
Strengthening WVJP's digital marketing capabilities	2,940
国際機関からの受取委託金等	1,772,795
国連児童基金 (UNICEF)	33,187
国連世界食糧計画 (WFP)	1,173,862
うち、受取委託物品	390,354
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	192,584
国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)	202,409
国連開発計画 (UNDP)	59,747
国連教育科学文化機関 (UNESCO)	11,722
教育のためのグローバルパートナーシップ (Global Partnership for Education)	3,080
教育を後回しにはできない (Education Cannot Wait) 基金 (ECW)	63,668
国際貿易センター (International Trade Centre)	32,536
<b>受取補助金等合計</b>	<b>2,602,941</b>

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

- 引当金の計上基準：
  - 賞与引当金： 職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
  - 退職給付引当金： 職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

### (5) 事業管理費等の内訳、および集計 (単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接関わる国内管理費  
 啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接関わる国内管理費  
 管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	啓発管理費	管理費
人件費等	460,328	148,099	243,045	69,184
会議費	6,808	1,839	2,867	2,102
旅費交通費	10,431	3,392	5,664	1,375
賃借料	50,243	16,626	26,055	7,562
支払手数料	155,259	8,471	134,654	12,134
その他の管理費	62,111	14,319	36,066	11,726
<b>合計</b>	<b>745,180</b>	<b>192,746</b>	<b>448,351</b>	<b>104,083</b>

人件費等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2025年9月30日現在、職員77名、嘱託・アルバイト16名が在職  
 会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用  
 旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等  
 賃借料：事務所家賃  
 支払手数料：入金にかかる口座引落・クレジット決済等の手数料、労働者派遣に関する料金、銀行・郵便局等の振込手数料等

### (6) 特定資産の内訳 (単位:千円)

補助金・助成金・委託金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金 ラオス教育3事業分	78,648
NGO連携無償助成金 ウガンダ3事業分	70,737
NGO連携無償助成金 ケニア2事業分	4,595
NGO連携無償助成金 ケニア3事業分	96,636
NGO連携無償助成金 ネパール防災3事業分	69,122
NGO連携無償助成金 バングラデシュ ラム3事業分	49,947
NGO連携無償助成金 エチオピア アファール事業分	67,811
NGO連携無償助成金 ヨルダン アンマン事業分	45,872
ジャパン・プラットフォーム助成金 バングラデシュ8事業分	12,482
ジャパン・プラットフォーム助成金 イラク8事業分	1,379
ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア教育3事業分	1,604
ジャパン・プラットフォーム助成金 シリア教育4事業分	29,376
ジャパン・プラットフォーム助成金 スーダン2事業分	1,509
ジャパン・プラットフォーム助成金 スーダン3事業分	47,114
ジャパン・プラットフォーム助成金 ミャンマー2事業分	18,659
ジャパン・プラットフォーム助成金 ミャンマー中部地震2事業分	29,595
<b>補助金・助成金・委託金引当資産合計</b>	<b>625,086</b>
当年度までに受領した上記事業にかかる補助金等のうち、2026年度以降に支出を予定している金額です。	

### 地域開発援助事業引当資産の内訳

スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	726,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(イ)	119,000
緊急援助事業引当資産(ウ)	10,000
<b>地域開発援助事業引当資産合計</b>	<b>855,000</b>

- (7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に用途を特定した資産であり、2026年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。  
 (イ)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に用途を特定した資産であり、2026年度以降に支出を予定しています。  
 (ウ)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

その他特定資産の内訳	
退職給付引当資産	189,468
<b>その他特定資産合計</b>	<b>189,468</b>

### (7) その他の固定資産の内訳 (単位:千円)

建物附属設備	8,530
什器備品	8,458
ソフトウェア	17,715
電話加入権	373
敷金	33,495
<b>その他の固定資産 合計</b>	<b>68,571</b>

### (8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

### (9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2025年度(2024年10月1日～2025年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=142.63円でした。

### 監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3～5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

# 2025年度 支援事業一覧

注記1「物」と記載のある支援額は、物資支援を円貨換算したものです。注記2 助成・委託団体名は下記の通りです。

- A: 外務省 日本NGO連携無償資金協力
- B: 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム【JPF】
- C: 国連世界食糧計画【WFP】
- D: 国連児童基金【UNICEF】
- E: 国連難民高等弁務官事務所【UNHCR】
- F: 国連人道問題調整事務所【UNOCHA】
- G: 国連教育科学文化機関【UNESCO】
- H: 国連開発計画【UNDP】
- I: 国際貿易センター【ITC】
- J: 教育を後回しにはできない【Education Cannot Wait】基金【ECW】
- K: ナノニク株式会社

国名	プロジェクト名	チャイルドスポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)
海外支援							
東アジア	カンボジア	トモ・ブオ地域開発プログラム	55,767,448				2,100
		ホレイ・チュルサル地域開発プログラム	66,301,298				2,300
		トモ・ブオ地域給水アクセス改善事業	5,656,196				1,000
		コク・ボウ小学校修繕支援事業	3,535,105				443
		カンボジア・タイ国境紛争緊急支援	688,487				124,940
	ラオス	トゥムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業2	13,635,015		50,226,544 A		63,861,559
		トゥムラン郡における就学前および初等教育の学習環境改善事業3	5,054,125		16,114,995 A		21,996
		ラオス洪水被災者支援事業	2,659,866		25,002,893 B		14,227
	モンゴル	最も弱い立場にある子どもたちへの医療費支援プロジェクト 第5期(モンゴル)	5,400,492				11
		カンディタン地域開発プログラム	47,967,440				15,013
東アフリカ	ミャンマー	カチン州における紛争の影響を受けた人々への生活状況の回復支援と子どもの保護事業	2,753,948				12,895
		カチン州における紛争被災者への緊急支援と子どもの保護事業	5,803,139		32,116,483 B		37,919,622
		ミャンマー中部地震緊急物資支援事業	2,925,520		17,113,980 B		20,039,500
		マンダレーにおける地震の影響を受けた子どもの保護事業と緊急物資支援事業	3,970,505				6,900
		ブティンタウンシップにおける国内避難民支援事業	659,984		15,159,168 C		15,819,152
		震災被災者を対象とした食糧および現金給付事業	446,002		657,614 C		1,103,616
		ミャンマー地震対応事業	8,261,844				458,216
	ベトナム	ムオンチャ地域開発プログラム	30,293,428				49,891
		トアンザオ地域開発プログラム	34,699,745				11,162
		ソンハ地域開発プログラム	57,006,724				28,189
	ムオンチャ地区およびトゥアチュア地区におけるソーラーランタン寄贈事業	4,982,700	物	258,045 K		2,550	
	ダバック郡における台風ヤギ被災世帯への緊急支援事業	3,442,435				805	
南アジア	インドネシア	フルバリア地域開発プログラム	60,380,310				2,100
		ピロル地域開発プログラム	65,337,417				2,200
		ビルゴンジ地域開発プログラム	60,380,310				2,200
		イスラムブール地域開発プログラム	69,674,885				2,700
		コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業2	10,279,865		62,010,034 A		108,879
		コックスバザール県ラム郡における水・衛生環境改善事業3	4,953,724		11,828,893 A		108,879
		ミャンマー避難民キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からのコミュニティの予防・対応能力強化事業	-631,064		5,474,690 B		3,119
		ミャンマー避難民キャンプおよびホストコミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)からの保護事業	7,449,060		14,307,480 B		3,187
		ミャンマー避難民キャンプにおける総合栄養不良予防およびコックスバザールの2郡における母子栄養改善事業	276,772		2,032,295 C		5,604,847
		ミャンマー避難民キャンプにおける食料支援(2024年)			3,295,780 物		3,247
	ミャンマー避難民キャンプにおける食料支援(2025年)			79,658,469 C		9,334	
	ロヒンギャ難民およびホストコミュニティの子どもたちを対象とした教育支援事業	1,170,428		141,925,093 C		12,879	
	最も弱い立場にある子どもたちへの医療費支援プロジェクト 第5期(バングラデシュ)	2,340,993		11,722,310 G		6,110	
	北ジャカルタ市マングローブ林再生事業(5年)	5,507,896				40	
	北ジャカルタ市マングローブ林再生事業(5年)	8,213,237				46,979	
南米	ネパール	チャイルド・スポンサーシップ事業	151,421,975				
		西ドティ地域開発プログラム					40,466
		バジャン地域開発プログラム					15,100
		バンケ・ジャナキ地域開発プログラム					56,653
		アチャム郡およびカイラウ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業2	6,178,076		41,773,099 A		67,000
		アチャム郡およびカイラウ郡におけるコミュニティを基盤とした防災事業3	10,732,449		29,372,873 A		67,000
		マデシュ郡およびバグマティ州における洪水および地滑り被災世帯への緊急支援事業	3,442,435				430
		レイテ地域開発プログラム	30,114,422		30,114,422		264,672
		サマル地域開発プログラム	40,896,128		40,896,128		46,080
		エステ地域開発プログラム	34,424,350		34,424,350		14,554
	EduTech: Transforming Education with Technology (※ICT教育支援)	24,074,876				19,988	
スリランカ	リディヤリヤッタ地域開発プログラム	43,374,680				20,026	
	ブケイ工地域開発プログラム	34,424,350				81,596	
	地域の食料を活用した学校給食プログラム	1,759,084		1,969,796 C		3,728,880	
	ゴンチャ地域開発プログラム	60,242,613				57,772	
	アファール州チフ郡における安全な水へのアクセス改善事業	5,352,174		7,728,070 A		58,250	
	ティグライ州アラマタ周辺地域における包括的救命支援事業	2,065,461		18,069,600 F		20,135,061	
	ティグライ州における食料支援事業	3,968,164		8,000,297 C		129,920	
				35,186,165 物		47,154,626	
	イララマタク地域開発プログラム	49,571,064				4,287	
	キアムボゴコ地域開発プログラム	49,571,064				33,367	
	ホマベイ郡における水・衛生改善事業2	15,430,496		80,151,161 A		25,500	
	キアムボゴコMother to Mother プロジェクト(3年次)	23,079,048		95,581,657		22,871	
	ケニア(ホマベイ郡)の教育施設等における水・衛生改善事業	8,261,844		23,079,048		13,035	
	キラムルジ地域開発プログラム	60,228,843		8,261,844		2,400	
	グウィヤ地域開発プログラム	55,767,447		60,228,843		32,708	
	ニヤガタレ地域開発プログラム	60,242,612		55,767,447		36,358	
	イソナ地域開発プログラム	38,555,271		60,242,612		149,004	
	コンゴ及びブルンジ難民とホストコミュニティに対する水衛生、教育、生計向上支援事業	11,704,279		38,555,271		63,519	
	ルワンダにおける難民支援事業	3,373,036		123,253,504 E		92,907	
	ニヤガタレ郡 ソマコ幼稚園・小学校教育環境改善支援事業	12,362,748				84,273	
	生計向上プログラムを通じた経済的自立支援事業(THRIVE 2030)	378,668		378,668		825	
	ソマリア・サウスセントラルにおける干ばつ救援事業	527,381		88,151,374 C		708,961	
		6,195,832		219,439 C		7,275	
	ソマリアランド総合食糧支援事業			7,704,309 物		14,119,580	
	ソマリア・ドーロにおける生計向上および食料システム強化事業	2,031,037		2,031,037 C		5,133	
	気候変動に対応した農業技術に関するパイロット事業(Innovation Challenge FY24)	11,017,857				548	
	西エクトリア州における食料支援事業(2024年)	342,316		6,492,335 C		11,017,857	
				12,417,113 物		19,251,764	
	ファショダ郡およびバニカン郡における食料支援事業	1,352,188		4,642,007 C		2,979	
	アッパーナイル州における保健サービス変革事業	3,258,196		9,839,501 物		15,833,696	
	南スーダン・教育分野におけるレジリエンス強化事業(2期)	8,846,920		29,032,875 D		3,162	
	スーダン危機国内避難民への水衛生緊急対応事業	1,157,760		3,668,251 J		48,331	
	南ダルフール州緊急食糧支援事業	206,546		1,157,760 B		5,738	
				28,018,470 B		27,775	
				1,246,459 C		6,500	
				28,503,873 物		2,444	
	南ダルフール州地域栄養改善事業	206,546		3,322,171 C		2,444	
				3,580,335 物		7,109,052	
				3,324,613 C		2,063	
				4,891,381 物		9,386,422	
				1,213,179 C		3,588	
				96,054,135 物		18,572	

国名	プロジェクト名	チャイルドスポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)	
海外支援								
東アフリカ	スーダン	ホワイトナイル州における食料支援事業	109,745				15,921	
		東ダルフール州および南ダルフール州難民・国内避難民・庇護希望者への保護事業			3,233,390 E		1,795	
		東ダルフール州および南ダルフール州における包括的な保護支援事業	7,230,904		40,032,677 E		527	
		ブルーナイル州におけるコレラ対応事業			4,117,817 F		24,335	
		南ダルフール州の緊急人道支援	6,106,191		42,500,626 F		20,152	
	タンザニア	ゴワ地域開発プログラム	37,983,828				43,841	
		ムキンガ地域開発プログラム	39,966,671				1,350	
		ルンデン地域開発プログラム	71,258,405				2,700	
		シンボダル小学校修繕支援事業		3,888,575			677	
		ロバランギット・カンガ地域開発プログラム	69,674,884				2,700	
東アフリカ	ウガンダ	ブインダ地域開発プログラム	34,424,351				2,000	
		ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業2		13,811,217	64,541,613 A		17,731	
		ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業3		6,593,007	15,745,388 A		18,087	
		ビディビディ、ルウムワンジャ、およびチャカ川難民居住地における食糧支援事業(2024)			31,053,285 C		14,814	
		ビディビディおよびロプレ難民居住地における生計回復支援	3,949,161		53,441,063 C		935	
		ビディビディおよびロプレ難民居住地における生計回復支援2	760,916		9,728,350 C		7,938	
		ビディビディ、ロプレ、ルウムワンジャ、およびチャカ川難民居住地における食糧支援事業	1,180,755		12,762,233 C		6,902	
		アグリビジネスのレジリエンスおよび競争力強化事業(STAR)	4,048,579		32,535,674 I		45,000	
		マタンガチア小学校の環境改善事業	9,301,322				1,757	
		ウガンダ「住民主体の自然再生アプローチ」(FMNR)推進プロジェクト	815,582				21,754	
	イニヤウ小学校建設支援事業	8,282,361				2,410		
	ロバランギット小学校建設支援事業	8,282,223				2,435		
南アフリカ	コンゴ民主共和国	サンブ地域開発プログラム	60,242,613				2,500	
		ルアラバ地域開発プログラム	60,242,613				2,500	
		中央カサイ州ルイサ、ルアンボにおける慢性栄養不良予防事業		7,838,055 C			5,237	
				2,092,950 物		9,931,005		
		中央カサイ州、東カサイ州における食料配布事業		206,546	1,387,657 C		3,855	
				11,306,886 物		12,901,089		
		中央カサイ州、東カサイ州における食料配布事業2		1,376,974	1,349,590 C/物		4,291	
		北キブ州における緊急現金給付事業		418,462	118,991,458 C		8,855	
		北キブ州における緊急現金給付事業2		2,916,156	1,831,046 C		11,257	
		タンガニーカ州における乳幼児と妊産婦への栄養支援事業		1,170,428	215,906 C		7,090	
	鹿キブ州における統合的レジリエンス強化事業		481,941			1,372		
	エスワティニ	グゲ地域開発プログラム	44,118,247				1,800	
西アフリカ	ガーナ	生計向上プログラムを通じた経済的自立支援事業(THRIVE 2030)			378,668		148,752	
中米	エクアドル	コルタ地域開発プログラム	55,147,808				34,420	
		アンガラ地域開発プログラム	39,656,851				1,350	
	エルサルバドル	サンアグスティン地域開発プログラム	37,178,298				1,300	
		セケ地域開発プログラム	60,242,612				2,500	
	グアテマラ	サンタ・マリア・カアボン地域開発プログラム	60,242,613				2,500	
	東欧・中東	アフガニスタン	バグス州およびゴール州における食料配布および現金給付事業			1,376,974		10,161
			バグス州干ばつ被災者への保健支援		1,825,730			33,018
			ヘラート、ゴール州における水衛生サービスのアクセス改善事業		2,338,653		28,548,223 F	24,000
			ファリヤブ州の干ばつ被災地域における命を守る水・衛生サービスの提供		1,044,159		17,422,958 F	6,997
			アフガニスタン学校整備支援事業(マイルストーンプロジェクト)		37,472,144		37,472,144	301
		アフガニスタン東部地震被災者支援		2,065,461		2,065,461	59,020	
		モスル西部における教育と子どもの保護支援事業3		2,860,721		4,838,510 B	961	
		避難民帰国者と地域住民の社会的経済的再統合		52,262,739		52,262,739 H	1,013	
		イラク・キルクーク県農業雇用促進事業		2,827,797		6,367,976 H	813	
		ニナフ県カファナにおける平和と安定の推進(A-PASS)プロジェクト		1,893,339		1,893,339 H	450	
東欧・中東	シリア	イルビッド県における脆弱層に向けた初等・中等教育の就学・学習支援体制強化事業3		10,223,146		59,126,381 A	8,706	
		アンマン県の難民・ホストコミュニティにおける幼稚園・小学校でのインクルーシブ教育促進事業		6,606,590		53,170,994 A	10,333	
	イラク	シリアにおける教育支援事業3		14,781,685		31,119,900 B	809	
		シリアの帰還民受入地域における教育支援及び子どもの保護事業		434,160		434,160 B	1,335	
		シリアにおける脆弱なコミュニティを対象とした食料および栄養支援事業		688,487		3,223,692 C	5,682	
				9,991,889 物		13,904,068		
		シリア国内避難民のためのパン・製造にかかる補助金給付事業		688,487		688,487 C	23,781	
		シリアにおける母子保健・栄養支援事業		344,244		3,620,047 D	0	
		シリアにおける緊急下の教育事業(2年次)		4,380,117		25,532,910 F	1,689	

## ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

### ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に‘何か’はできなくとも、誰かに‘何か’はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



ワールド・ビジョン創設者  
ボブ・ピアス

### 組織と運営

WVでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のWVの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を始める国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



### ワールド・ビジョン 全体の活動データ (2024年度)

#### 組織関連

活動国数

約**100**カ国

スタッフ数

約**34,000**人

食糧支援を受け取った人

**900**万人

#### 活動関連

開発援助

チャイルド・スポンサーシップで登録されている子ども

**230**万人以上

チャイルド・スポンサーシップによる支援実施回数

**49**カ国

チャイルド・スポンサーシップによる支援が届いている子ども

約**1,460**万人

緊急人道支援

緊急人道支援を届けた人

**3,520**万人

アドボカシー

ぜい弱な子どもたちのために実施された運動

**700**万件以上

## ワールド・ビジョン・ジャパンについて

### ワールド・ビジョン・ジャパンの始まり

WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年には「特定非営利活動法人」の認証を得て、法人格を持つ民間の援助機関となりました。また2002年5月には、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは東京都より改めて認定されています。



### 組織図



### 役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 片山 信彦 (元 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 副理事長 飯島 延浩 (山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 理事 峯野 龍弘 (ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会元老教師)
- 理事 湊 晶子 (元東京女子大学学長)
- 理事 安西 愈 (弁護士)
- 理事 安藤 理恵子 (玉川聖学院中等部・高等部学院長)
- 理事 富岡 徹郎 (国際基督教大学常務理事)
- 理事 チャールズ・パデノック (ワールド・ビジョン・インターナショナル パートナーシップ・リーダー)
- 理事 森 清 (社会医療法人財団大和会理事)
- 理事 中島 みぎわ (特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 監事 小西 孝蔵 (元農林中央金庫監事)
- 監事 新川 代利子 (ウェスレアン・ホーリネス神学院教授)

親善大使 ジュディ・オング (歌手・女優・木版画家)

親善大使 酒井 美紀 (女優)

2025年10月1日時点



### SDGsへの取り組み

WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通じて、持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の達成に向けた取り組みを進めています。

